



患者さんがゆったり座れる明るい待合室



グレーラインがアクセントカラーに。診療室へは左のドアから入る



スタイリッシュで清潔感があふれる外観

# 理想の歯科医院像を 貫いたことが 順調な開業1年目に つながる

東京都青梅市にある「野中歯科医院」は2019年5月、地元密着型の歯科医院として開院した。開業準備から開院後のスタートダッシュまでのプロセスを伺ってみた。

野中歯科医院 院長 野中 裕介 先生



## 理想の歯科医院づくりに チームで取り組む

「野中歯科医院」はJR青梅線河辺駅から徒歩10分の距離にある。清潔感のある白いスクエアなデザインの外観は、遠くからもよく目立つ。

野中裕介院長が勤務医を経て、自身の歯科医院を持つと考えたのは開院より3年ほど前のことだ。

「患者さんとよく相談して診療方針を決め、治療が終わったら予防に移行し、一緒に成長していける歯科医院を作ろうと考えました。そのためにまずこだわったのが立地です」

野中院長は、地域密着型の予防を重視した歯科医院を作るため、ある程度の敷地面積が確保できる郊外に開業の場所を求めた。

「土地探しは難航しました。駐車場も必要ですし、患者さんの通いやすさや人口密度を考えると、なかなかぴったりの土地が見つからなかったんです。そういうときに限って、テナントのいい物件が出てきたりするんですよ。早く開院するために開業場所を変更したほうがいいのかと気持ちが揺らぎました」

そんな野中院長の迷いを受け止め、相談に乗ってくれたのは、歯科医院の設計・施工を得意とする施工

会社の社長だった。開業を思い立ったときからパートナーとして、土地探しも協力してくれていた。そして、施工会社からの紹介で、ササキの営業パーソンも開業準備のチームに加わるようになったという。

「私が理想に近い形で歯科医院をスタートさせることができたのは、一人ではなく、チームで取り組んだからだと思っています。『一生、仕事をする場所なのだから、よく考えて』と親身にアドバイスしてくれました。そのおかげで、焦らずに落ち着いて判断できたのだと思います」

## 自身とスタッフの 快適性も重視

野中院長が現在地に決めたのは、近隣の住民が駅との行き来に使う生活道路だったことが大きい。車線の多い幹線道路は対向車線からの進入が難しいが、二車線の生活道路であれば、駐車場に入りやすい。

「開院してから知ったのですが、人通りが多い通りだったことも宣伝に役立ちました。建設が始まった頃から、『何ができるのだろう』と関心を持ってくれた人が多かったのです。開業予定の看板を立てたり、告知の